

岩手県大船渡市の林野火災

3月9日、消防庁は2月26日正午過ぎに岩手県大船渡市で林野火災が発見され、2月27日に1人の死者が出たと発表しました。また長期間にわたる消火活動が行われた結果、林野火災の鎮圧が発表されました（「鎮圧」とは火災がさらに拡大することはないと判断されたことで、火が完全に消えたという「鎮火」ではありません）。焼失面積は約2900ha（大船渡市の面積の9%）になりました。今回の林野火災は、平成以降国内最大規模となりました。

大船渡市は14年前に発生した東日本大震災で被災された方々が過ごしている地域です。林野火災によって避難された方々の中には、震災の記憶を思い出した方もいるかもしれません。

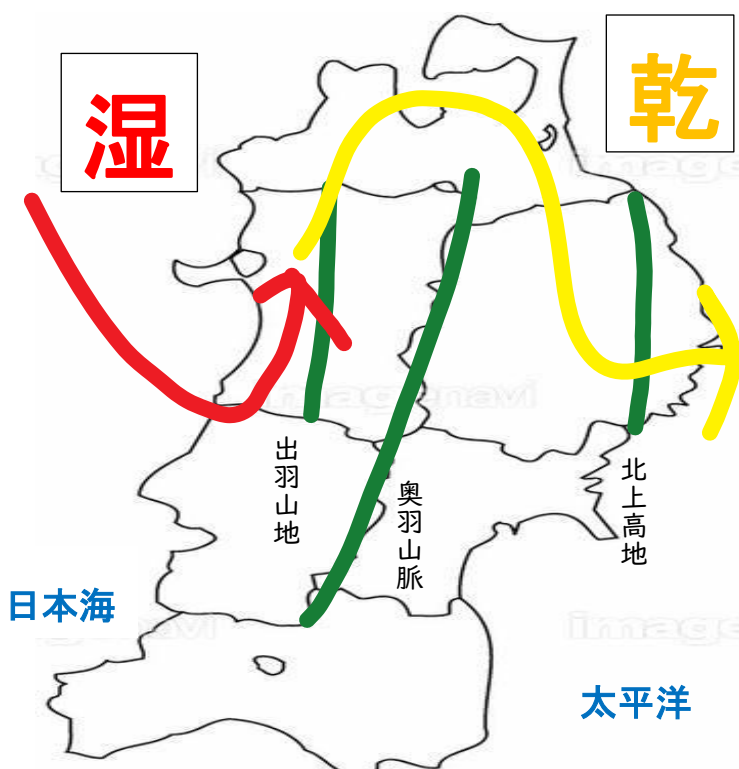
（参考）総務省消防庁 HP 災害情報 2月26日岩手県大船渡市の林野火災による被害及び消防機関等の対応状況（第23報） 3月9日更新

<https://www.fdma.go.jp/disaster/info/items/835363b9312e986ee7d798fb3cdb69c208a93d57.pdf>



筆者が作成した3月8日時点大船渡市の焼失面積範囲を表した大船渡市の地図（赤線内が焼失面積）

冬の火災が発生する気象条件



この林野火災の原因はまだ分かっていませんが、強風と乾燥が原因として考えられます。2月26日には大船渡市に乾燥注意報と強風注意報が発表されていました。冬の日本海側では、湿った空気が出羽山地、奥羽山脈、北上高地にぶつかり雨や雪を降らし、風が太平洋側に流れるころには乾燥した空気になります。空気が乾燥することによって、落ち葉や小枝などに含まれている水分量が少なくなり、落ち葉が擦れ合いやすくなるため、摩擦力が発生し、それによって火種になります。そこに風が吹くことによって、燃えている場所が急速に広がり、最終的に林野火災につながる可能性が高まります。林野庁によると、林野火災の原因の大半は、^{たきび}焚火や火入れです。これらの人為的な原因による林野火災を防ぐためには、野焼きなどを行う際に火元が完全に消えたかどうかを確認することが大切です。乾燥は主に3月から5月にかけて発生しやすいため、雨の降らない日は火災に十分に注意をしましょう。